

タマネギべと病の防除の徹底について

岡山県病害虫防除所による 4 月 23～24 日の巡回調査では、タマネギべと病の発生圃場率が 57.1%（平年 18.2%）と平年より高くなっており、一部では多発生圃場がみられます。4 月 24 日発表の向こう 1 か月の予報では気温が高く降水量は平年並とされており、本病を助長する条件ではありませんが、今後雨が多くなると感染が拡大する恐れがあります。圃場をよく観察し、防除対策に万全を期してください。

なお、農薬の使用に当たっては、タマネギの収穫前日数を考慮して農薬使用基準を遵守し、安全・適正に使用するとともに周辺農作物等への農薬飛散防止対策をとってください。

（防除上の参考事項）

- （1）タマネギは、球の肥大期頃、晩生種では 4 月下旬から 5 月に本病に対する感受性が急速に高まり、病勢が進展する。
- （2）発病を確認した圃場では葉によく付着するように薬剤散布を行う。薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の連用は避ける（表 1 参照）。
- （3）べと病の類似病害に黒点葉枯病、黒斑病があるが、べと病は多湿時には病斑上に白色または灰白色の分生胞子を形成する（図 1）のに対し、黒点葉枯病は病勢が進展すると病斑上に小黑粒点を密生し（図 2）、黒斑病は病斑上にすすの様なかびをつくり、病斑の上下が長く帯状に淡褐色に変色するので区別できる。



図 1 タマネギべと病の病徴



図 2 タマネギ黒点葉枯病の病徴

表1 タマネギベと病の防除薬剤

系統名	薬剤名	治療効果	散布量・濃度	使用基準		成分名
				時期	回数	
フェニルアライド系剤を含む	☆リトミルMZ水和剤	●	500～750倍	収穫7日前まで	3回以内	メタラキシル+マンゼブ
	☆リトミル銅水和剤	●	400～600倍	収穫7日前まで	3回以内	メタラキシル+銅
メトキシアクリレート系を含む	☆アミノスター20フロアゾル	●	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	メタラキシル+TPN
	★アミスターフロアゾル	●	2,000倍	収穫1日前まで	4回以内	アゾキシストロビン
シアノアセトアミド系を含む	★ホライズントライフロアゾル	●	1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	アゾキシストロビン+TPN
	★ホライズントPZ水和剤	●	2,500倍	収穫3日前まで	3回以内	シモキサニル+フロアモキサトロン
モルフオライド系を含む	カーゼートPZ水和剤	●	1,000倍	収穫3日前まで	3回以内	シモキサニル+マンゼブ
	フェステイバルM水和剤		750～1,000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジメトモルフ+マンゼブ
有機銅剤	フェステイバルC水和剤		600～800倍	収穫7日前まで	3回以内	ジメトモルフ+銅
	ヨネボン水和剤		500倍	収穫7日前まで	5回以内	ノニルフエノールスルホン酸銅
有機硫黄剤	ジヤソダイト水和剤		400～600倍	収穫3日前まで	5回以内	マンゼブ
	ペンコゼブ水和剤		400～600倍	収穫3日前まで	5回以内	マンゼブ
有機塩素剤	ダコニール1000		1,000倍	収穫7日前まで	6回以内	TPN
	ランソフロアゾル		2,000倍	収穫7日前まで	4回以内	シアゾフロアミド
その他	トージヤスフロアゾル		1,000倍	収穫7日前まで	4回以内	シアゾフロアミド+TPN
	フロソサイド水和剤		1,000～2,000倍	収穫7日前まで	5回以内	フルアジナム

注1) ☆印および★印の剤は連用すると薬剤感受性が低下する恐れがあるので、耐性菌を出現させないために同じ印の薬剤の連用を避ける。ホライズントライフロアゾルの一成分フロアモキサトロンとメトキシアクリレート系剤は、系統が異なるが相互に交差耐性を示す可能性がある。
 注2) 表中の●印はタマネギベと病に対して、治療効果のある薬剤を示す。